

市町村のまちづくり

伊奈・谷和原丘陵部一体型特定土地区画整理事業の整備が完了

～つくばみらい市～

つくばみらい市 都市建設部 都市計画課 係長 谷口 通夫

経緯

つくばみらい市は、茨城県の南西部、東京都心から40km圏の首都近郊都市に位置しています。

茨城県施行の伊奈・谷和原丘陵部一体型特定土地区画整理事業は、昭和62年に開発整備基本構想が策定され、平成5年に事業認可を受けました。その後、宅鉄法(大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法)に基づき、鉄道整備と沿線のまちづくりを一体的に進め、健全な市街地の形成を図るとともに、自然と都市機能が調和する新しいまちづくりを進め、平成25年6月末に区画整理事業の整備完了(換地処分の公告)を迎えました。

伊奈・谷和原丘陵部(みらい平地区)は、豊かな自然が残されたエリアで、周辺には美しい田園風景も広がっています。また、市の新しい玄関口のみらい平駅は、沿線で唯一地下駅でも高架駅でもない掘割の駅であり、大屋根も緑色で特徴的な構造です。みらい平地区のランドマークとなるマンションには多くの方が居住されるなど、つくばエクスプレスや常磐自動車道など社会的インフラが整備されたことにより、急激に都市化が進んでいます。660人程度であった地区内人口も、平成25年6月末には8,000人を超え、現在も年間約1,000人のペースで増加しており、市では、より良い教育環境の充実を図るため、新設小学校や市民交流・ふれあいの場となるコミュニティセンターの建設を進めています。



みらい平駅周辺を上空から望む



大屋根のみらい平駅とマンション

計画概要

事業名称 伊奈・谷和原丘陵部一体型特定土地区画整理事業
 施行面積 274.9ha
 施行者 茨城県
 施行期間 平成5年度～平成29年度(清算期間5年含む)
 計画人口 16,000人

市では、施行面積が大規模で換地処分までの仮換地期間が長期に及ぶため、その間の住所をわかりやすく表現するとともに、換地処分時に定める正式な新町名への円滑な移行をはかるため、将来の予定町名を先行的に使用し、街区方式との二重併記とし早期から予定町名の定着を図ってきました。そのことにより換地処分後にも混乱なくスムーズに新町名へ移行することが出来ました。



建設中の(仮称)陽光台小学校(外観イメージ)

■公園概要

みらい平地区内は、駅周辺の賑わいのある陽光台エリア、北西部の閑静な富士見ヶ丘エリア、そしてそれらをつなぐ中間的な紫峰ヶ丘エリアの3つのエリアイメージになっています。

これらのエリアそれぞれに中心となる公園を配置し、新しい街並みにふさわしいシンボリックな空間をつくっています。それらの公園周囲に小さな公園を配置して公園ネットワークを形成し、地域の方が歩いて楽しめるまちづくりを行うとともに、自ら新しいコミュニティを育てる拠点となっています。



富士見ヶ丘エリアの「くわがた公園」

■整備完了記念イベント

伊奈・谷和原丘陵部地区区画整理事業の整備完了を祝し「整備完了記念イベント”ようこそみらいへ”」を平成25年7月に開催しました。メインイベントとして、2,060人の市民が「☆・2013・MIRAI」の人文字をつくり、西暦2013年にちなんだ2,013mと日本一長いテープカットの記録に挑戦し、日本一の記録を達成しました。

また、この記録は様々な日本一を掲載している運営会社へ申請し、日本一が認定され掲載されています。



日本一長いテープカット風景

■健康ロードコース

みらい平地区の新しい街並みを市民の方が気軽に歩けるウォーキングコースを整備しました。3kmと5kmコースを設定し、その日の体調に合わせてコース選択が可能です。コースには、途中に公園なども有りトイレ休憩も可能です。分岐点には案内タイルが歩道に埋め込まれ距離や道標の案内をしています。



スタート地点の案内板



歩道に設置された案内タイル



イベント会場を上空から望む